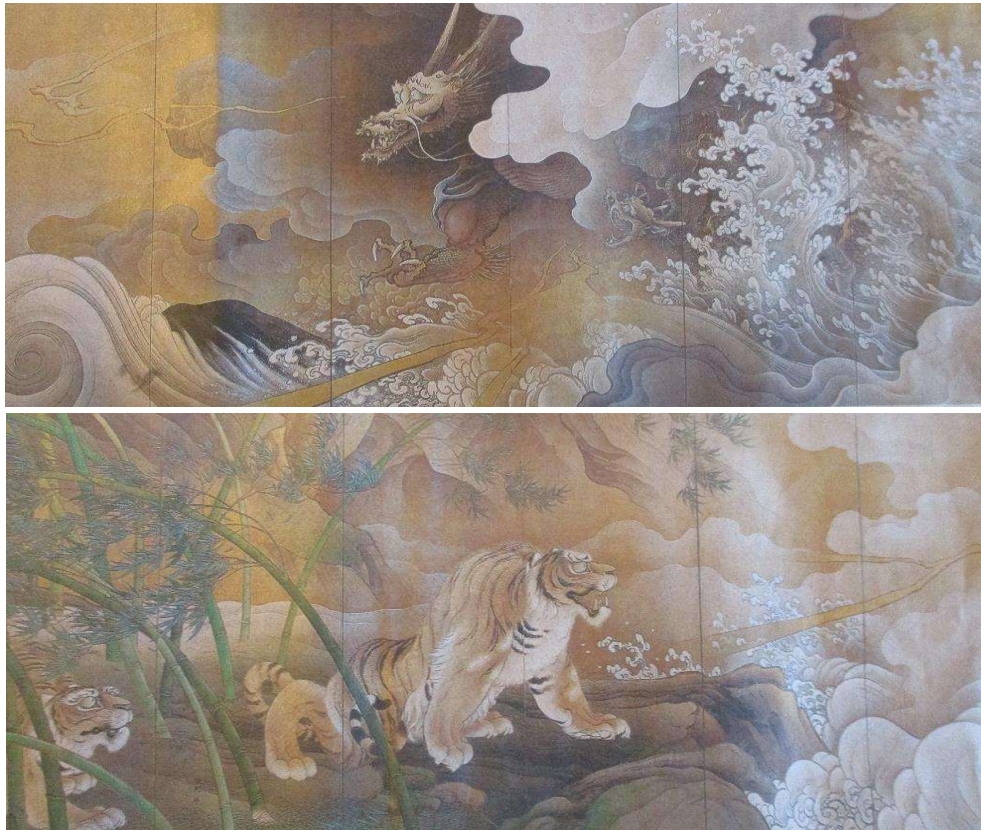


ハッピー龍イヤー！ ～絵画・工芸の龍を楽しむ～

静嘉堂文庫美術館(丸の内明治生命館) 24.01.02～02.03



想像上の動物である「龍」は古代中国で誕生し、天に昇り雨を降らせるなど様々な力を持つとされ、さらに強さや権力を象徴するため、これまでに吉祥図模様として東アジア絵画を始め数多くの工芸品に取り上げられている。

橋本雅邦《龍虎図屏風》右隻・左隻 1895年 六曲一双 絹本着色 重文財
龍は水に潜み空中も飛行するが、この作品の評価も龍のごとく上下してきた。

龍虎は水墨で描かれたが彩色され、せり上がる波は北斎作《神奈川沖浪裏》をしのぐ奇想ぶりで、不動明王の光背の火炎のようですらあるとされ、“この意匠の斬新さはどこから”といわれている。



辰年にちなむ工芸品としては、《青花黄彩雲龍文盤》「大清乾隆年製」銘景德鎮官窯 清時代 乾隆年間(1736～95)などが展示されている。